

公益財団法人富山第一銀行奨学財団

理事長 金岡 純二 殿

助成研究成果概要報告書

教育機関名 : 富山大学	助成金額 :	850 千円
研究代表者 : 木村裕三	所属 : 大学院医学薬学研究部 (医学)	職位 : 教授
研究題目 : 高等学校英語教育カリキュラムの卓越性:最新の動機づけ理論から読み取る富山国際大付属高校英語授業の波及効果		

研究概要

本研究は、富山県下において英語教育の最前線に位置する富山国際大学附属高等学校の英語教育を研究対象とし、英語教師と生徒の動機づけ（やる気）に研究の視点を定め、心理学の最新理論である複線経路等至性モデルを分析の理論として援用しつつ、同校の英語教師と生徒の英語教育・学習の動機づけがどのように変遷するのかを分析した研究である。富山国際大学附属高等学校の英語教育は、教師と生徒の双方に英語教育と英語学習への高い動機づけを維持しているように思われている。その動機づけが実際どのように変遷していったのかという課題を明確にすることにより、富山国際大学附属高等学校での英語教育・学習への動機づけ（成果）が学問的に同定され、県内の県立高校への普及化も可能となる。

研究期間の1年間にわたり、3名の英語科教諭の授業を長期参与観察した。学期ごとに各教諭と6名のフォーカス生徒を対象に半構造化インタビューを実施した。インタビューの内容を文字に起こし、質的分析支援ソフト(NVivo 12)を使い、複線経路・等至性モデルを理論的枠組みとして参加者の英語教育・学習への動機づけを解釈し、県立高校への普及化の可能性を吟味した。

成果要約

複線経路等至性モデルでは、人の発達や人生経路を分析単位とし、その中で共通した通過点を「等至点」、重要な局面での別れ道を「分岐点」、等至点に向かうための後押しとなる感覚を「社会的ガイド」、逆に等至点に向かうことを阻止する要因としての「社会的方向づけ」を道具立てとして備えている。

・英語教師の英語授業への動機づけ：参加した3名の英語教師の上記理論に基づく分析から、各教師の人生経験が授業への動機づけに深く関与していることが判明した。年長の教師は、長年の英語教師としての蓄積を活用し、今回のフォーカス生徒の授業への取り組みを素早く読み取り、教材を微調整して授業に臨むなど、英語授業への高い動機づけを保持していることが判明した。一方、若い頃に国際政治を専門としていた2人目の教諭からは、その知識を活かした授業展開に高い動機を保ちながら授業を展開していることが判明した。3人目の教師はアメリカの国際政治学専攻で大学を卒業したALT（外国語指導助手）であるが、偶然2人目の教師と専門背景が同じであり、自身の学問背景が授業に活かせる部分があることに高い動機づけ保持していた。

・フォーカス生徒の英語学習への動機づけ：複線経路・等至性モデルから、6名の生徒の英語学習への動機づけが、3名の英語教師の日々の授業に加え、課外活動から大きな影響を受けていることが判明した。特に、1年次で渡航するアメリカ研修、韓国研修と、課外活動として参加した全国英語ディベート大会での上位結果に、英語学習への動機づけが大きく肯定的に作用していることが判明した。

・普及化について：2人目の教師が主宰する県内ディベート訓練への積極的な県立高校担当者の参加により、英語課外活動を通じた県立高校における高校生の英語学習への動機づけの高まりと維持が期待できると考えられる。

<p>研究成果 発表状況</p>	<p>【雑誌論文, 学会発表, 図書, 新聞掲載, 作成 Web ページ, 特許権等の出願・取得状況】</p> <p>Kimura, Y. (2019, March). <i>Similar trajectories in different landscapes? The advantage of examining L2 teacher motivation using TEA compared DST</i>. Paper presented at American Association of Applied Linguistics, Atlanta, USA.</p>		
<p>経費の 執行状況</p>	<p>区 分</p>	<p>執行額 (円)</p>	<p>備 考</p>
	<p>【物品費】</p>	<p>549,102</p>	
	<p>テープ起こし</p>	<p>221,438</p>	<p>・参加者インタビューの テープ起こし経費</p>
	<p>パソコン・ビデオカメラ周辺機器</p>	<p>215,158</p>	<p>・IC レコーダー收音マイ クなど, 本研究のイン タビューに必要な機 器</p>
	<p>電子会議システム年間使用料</p>	<p>112,506</p>	<p>・ネット会議によるイン タビュー開催のため の経費</p>
	<p>【旅費】 2019/03/08-17 アメリカ応用言語 学会口頭発表</p>	<p>270,898</p>	<p>・旅費の一部経費</p>
	<p>【謝金】 研究指導助言に対する謝金</p>	<p>30,000</p>	<p>・参加英語教諭からの指 導助言を実施した際 の謝金</p>
	<p>【その他】</p>	<p>0</p>	
	<p>合計</p>	<p>850,000 円</p>	